

2008年7月19日

日本医療学会 市民シンポジウム

「みんなが安心できるお産を目指してー役割分担と協調ー」

## ユーザーから見た安心なお産

河合 蘭

出産ジャーナリスト／REBORN 代表

女性にとって出産の安心とは何でしょうか。私が出産・育児サイト「ベビカム」と共同で行った調査では、日本の母親たちは非常に近距離指向で通院時間が30分を越えると途中で生まれるという不安が急増しました。

まして高齢出産の方、難産歴のある方たちは不安です。「産まないでほしい、と言われてるよう」と悲痛な声も聞こえてきます。また、通院時間が1時間を越える人が多い岩手県遠野市の女性は、普通のお産なら大丈夫だろう、としながら「せめて、緊急時に受け入れてくれる所がほしい」と切実なコメントを寄せてくれました。出産施設が遠いと、異常事態を早期に発見するチャンスを逃す可能性もあります。こうしたリスクに対応策を打ち出せない限り、女性から集約化への賛成をとりつけるのは難しいと思います。

対応策のひとつをご紹介します。現在、遠野市には市営の助産院が開設されていて、市の助産師さんは市内の妊婦をすべて把握しています。妊婦健診を行うほか、吹雪の夜に陣痛が起きれば産婦さんの家に向いたり、入院に同行したりします。都市に高度医療の施設がそびえることも大切ですが、助産師によるこうした基本的なサポートこそ産科医療の土台なのだとは私は遠野で痛感しました。

集約化に女性が抵抗を感じるもうひとつの理由は、強い信頼関係がある既存の出産施設を失う「喪失感」です。長野県上田市産院の存続を求めた署名運動に参加した女性たちは、上田市産院に本能的な安心できる「巣」を見いだしていたのです。そして巣の本質とは何かというと、そこに勤務する助産師さんとの精神的なつながりでした。上田市産院は助産師さんが一生懸命関わる産院だったのです。

女性には、医療があることを理性で理解する父性的安心と、肌で感じる母性的な安心が必要です。後者がはぐくまれるには、助産師外来、院内助産院のような時間とスキンシップが必要です。集約化は時代の必然かもしれませんが、女性の視点を持った集約化であってほしいと思います。

# ユーザーから見た安心なお産

2008年7月19日 日本医療学会シンポジウム  
「みんなが安心できるお産を目指して」

出産ジャーナリスト／REBORN代表

河合 蘭

## 集約化

産む人にとってのメリット、デメリットは？

- メリット

出産場所・産科医がサバイバルできる

緊急時に確実に対応できる施設ができる

- デメリット

出産施設が遠くなる・・・不安、通院負担の増加

既存の拠り所の閉鎖・・・喪失体験→署名運動

## 出産施設が遠くなるとき 女性が受ける影響(1)

- 7割が「車で15分圏内」で産みたがっている。  
(初産婦 67.1%、経産婦69.5%)  
「30分圏内」と答えた人は3割。
- 最も大きな不安は「陣痛時に間に合うか」  
この不安は30分を越えると特に大きくなる。

河合 蘭／妊娠・出産・育児サイト「ベビカム」共同企画調査

## 出産施設が遠くなるとき 女性が受ける影響(2)

- 家族が出産に参加しにくい→孤独な出産
- 出産施設が身近な相談先にならない→異常  
出産の予防、早期治療のチャンス減少
- 人工的な陣痛誘発の増加
- 妊婦健診の未受診が増える可能性も？

## 特に深刻なのは ハイリスク妊婦さんたち・・・

- 子どもが2人いますがどちらも出血で入院しているので、〇〇病院がなくなるのは不安です。
- 3人目の妊娠・出産は無理だと思っています。
- 不妊治療で高齢出産をした私は悪いことをしたのですか？

私は妊娠してはいけないんですか？

河合 蘭／妊娠・出産・育児サイト「ベビカム」共同企画調査から

### 岩手県遠野市からの声

- 主人は一人目の出産に立ち会うために産院に駆けつけたとき、軽い事故にあった。
- (近所に産める病院が残ることが)難しいのであれば、せめて緊急の時に受け入れてもらえる場所だけでも近くにあったら・・・病院が70キロ離れていたのも通常のお産であれば何とか間に合うと思っていましたが、トラブルがあったらどうしようという不安は常にあったので。

# 今、できることは？

## 岩手県遠野市の実践

- 行政が開業助産師を雇用。
- 市立助産院を開設、妊婦健診を実施。
- 助産師が入院に同行することがある。
- 助産師は妊婦さんに携帯番号を渡している。



## 上田市産院（長野県）の存続署名運動

- 運動に参加した多くの女性が「上田市産院でもうひとり・ふたり産みたい」と願っていた。  
＝産院廃止は女性たちにとって巢が落とされることだった。



「巢」の本質・・・助産師との精神的なつながり

# 女性にとっての「安心」

- 高度医療による安心  
頭で理解する理性の安心
- ローテックなケアによる安心  
心と肌に感じ取る感性の安心

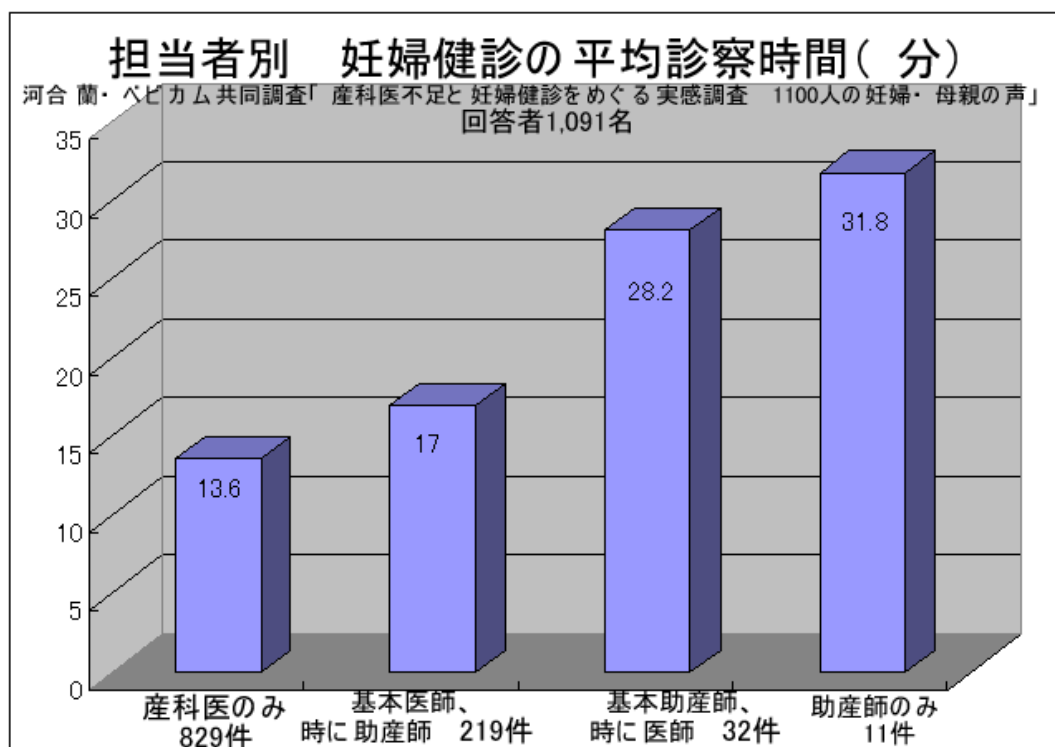
## 心と肌への安心感がある集約化とは

- 地域における既存の強い絆をできるだけ保つ  
(移植による根の傷みを最小限にする)。
- 小規模施設のローリスク出産を支援し、できるだけ出産と健診の場／人を分離しない。
- 助産師活用  
・・・助産師外来、院内助産院、助産師派遣

# 病院の助産師外来

- 医師の産科外来1/4に。
- ハイリスクの人も助産師のケアが受けられる。
- 30分くらい話せる。

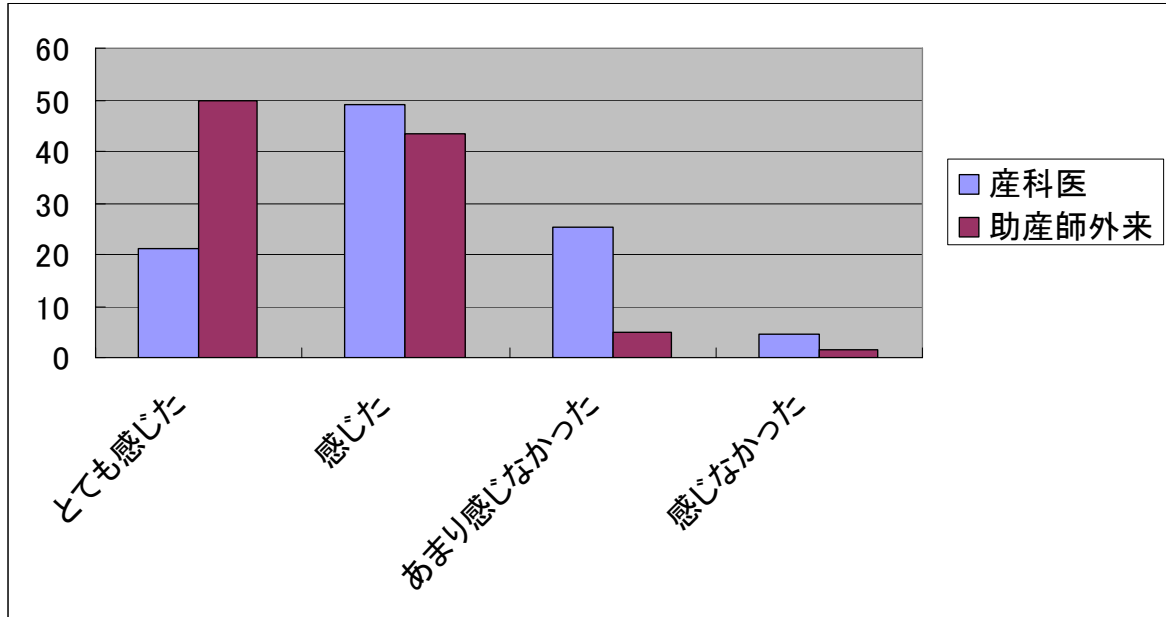
助産師がくれる  
一番のもの、  
それは時間です。



## 妊婦健診の担当者の印象

# 質問しやすい

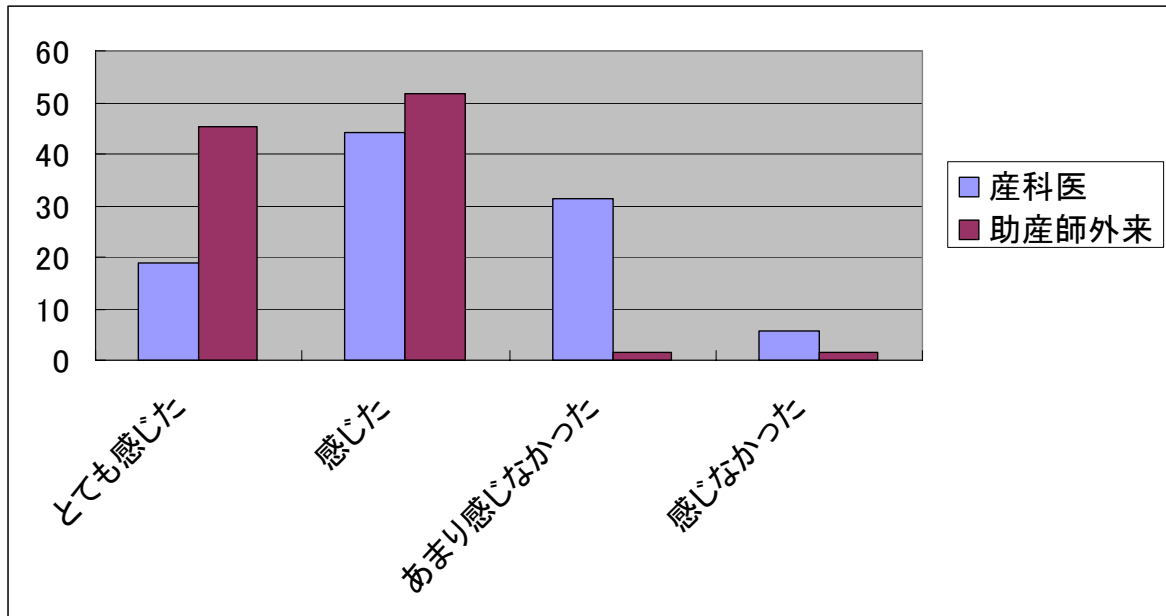
産科医894名  
助産師外来62名



## 妊婦健診の担当者の印象

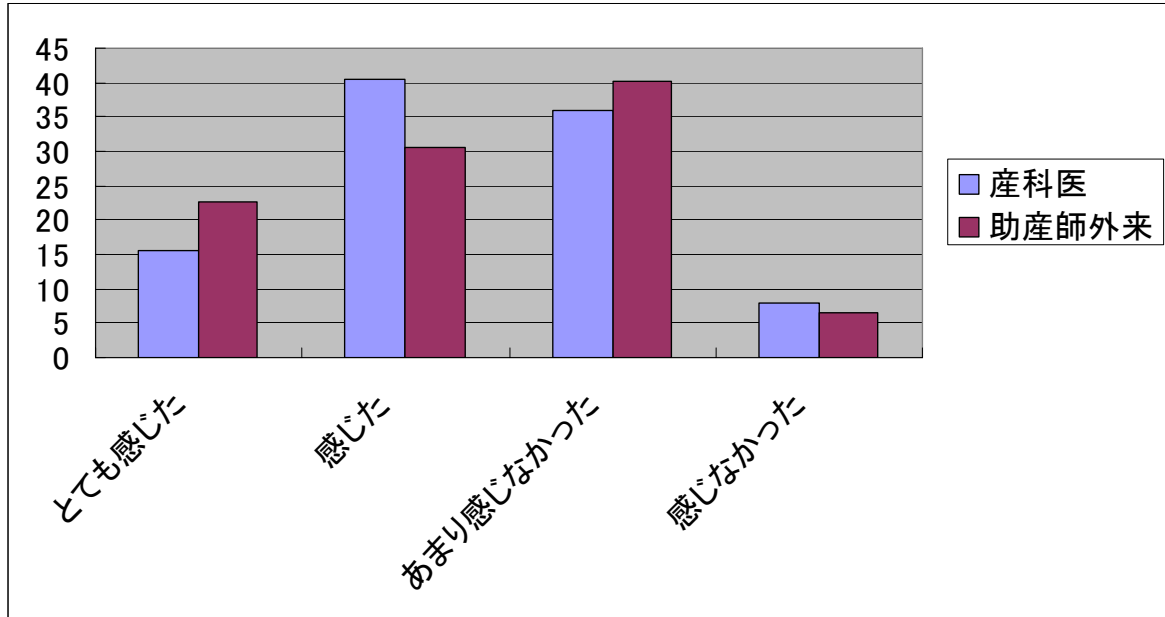
# 励まされる

産科医894名  
助産師外来62名



# 妊婦健診の担当者の印象 自分の出産のリスクがよく分かる

産科医894名  
助産師外来62名

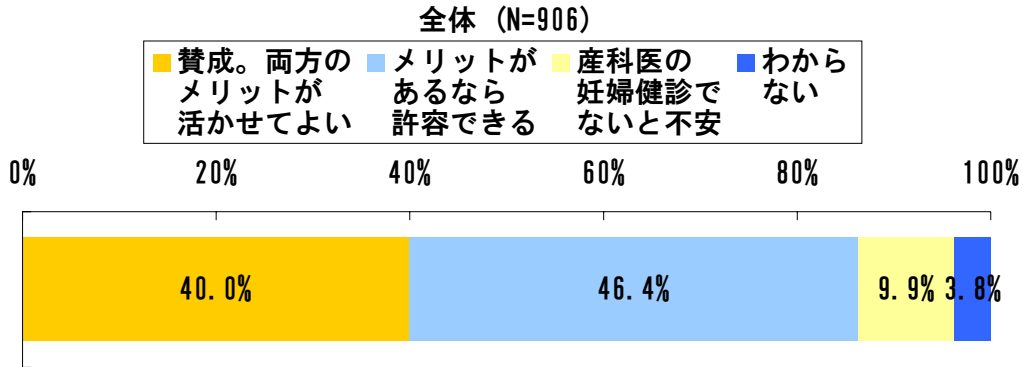


## 女性が出産のリスクを理解する条件

- リスクの存在について情報が提供されること  
→不安の出現
- 気兼ねなくどんな質問でもできること
- どんな事態になっても一緒に併走してくれる  
人がいること→リスクの存在を受容

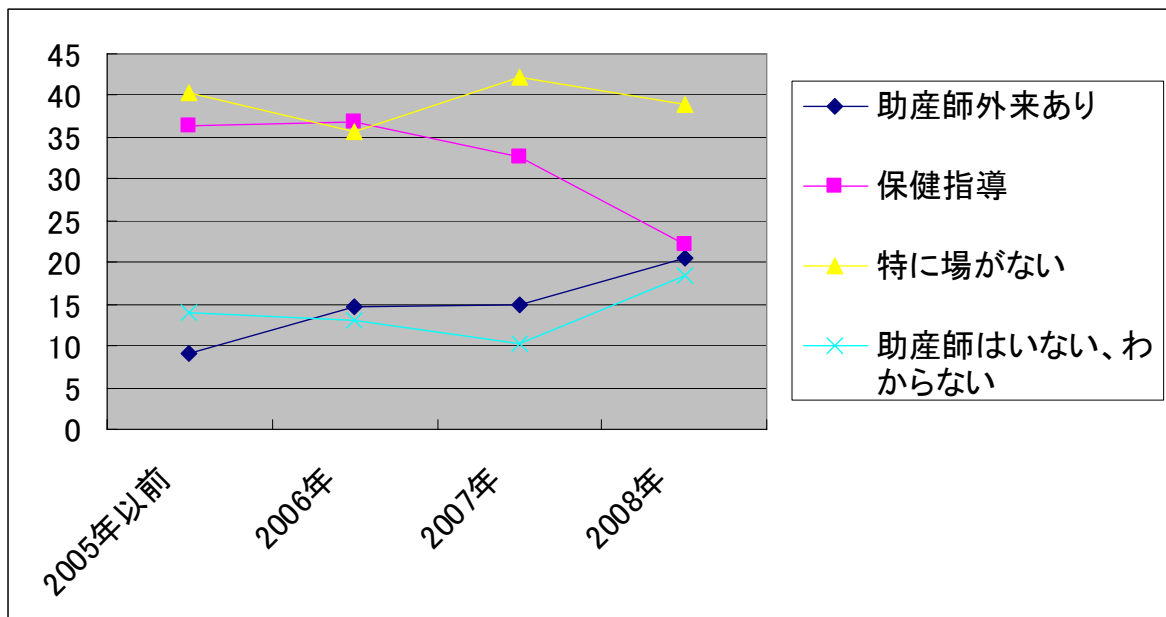
# 助産師外来・院内助産院をどう思いますか？

出産経験者906名  
河合 蘭・妊娠育児サイト「ベビカム」共同調査2008年



## 助産師さんと話せる場はありましたか？ (%)

病院あるいは診療所で出産した(予定含む)人 1,068件



ご静聴どうもありがとうございました。